

YNU initiative

〔学士課程〕
都市科学部
建築学科

YOKOHAMA
National
University

YNU Initiative for Global Arts & Sciences
横浜国立大学

発行：2024年3月31日

編集：横浜国立大学 学務・国際戦略部 教育企画課

www.ynu.ac.jp



都市科学部

College of Urban Science

建築学科

都市科学部 (College of Urban Science)

都市科学部の教育理念は、国際都市＝横浜・神奈川地域に立脚して、グローバル化に積極的に対応し（「国際性」）、スタジオ教育等を通じた「実践」的取組みと、イノベーションにつながる教育の「先進」的取組みを進め、大都市をフィールドにして世界と日本、社会に「開放」された教育を目指している。

建築学科

(Department of Architecture and Building Science)

建築学科の教育理念は、人間の生活する空間を創造する従来の建築学に加え、社会・文化・人間の営みを洞察する人文社会科学的知や、社会・都市・地球環境における潜在的・顕在的なリスクを把握する広範な理工学的知を融合した教育を目指している。

教育 目的

学部学科の人材養成目的 その他教育研究上の目的

[学則別表第4]

都市科学部 (College of Urban Science)

都市科学部の人材養成目的は、グローバルな課題とローカルな課題が直結する国際都市＝横浜・神奈川地域に立脚する本学独自の文理融合の蓄積とリスク共生学の強みをいかし、都市科学という今までにない学問領域の創出と、グローバルとローカルが直面する多様で複雑なリスク・課題の解決をはかることのできる人材養成を目指している。

建築学科

(Department of Architecture and Building Science)

建築学科の人材養成目的は、主として理工学分野における、都市工学や社会工学、自然環境科学との連携だけではなく、人文社会科学や地球科学、自然科学と連携した文理融合領域を活かして、建築を総合的科学として学び、ローカル・グローバルの多様な社会的課題に応答できる人材を養成することを目指している。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

DP1 都市科学部(建築学科)が養成する人材

[都市科学部が養成する人材]

- 理工学の素養と人文社会学の知識を学び、文理両面の視点を備えた人材
- ローカルおよびグローバルにわたる広い視野、横断的な課題解決能力、総合力を備えた人材
- 豊かさとリスクのバランスを適切にマネジメントするリスク共生学の基本を学び、自然・社会環境のリスクを総合的に理解できる人材
- 世界の異なる宗教や文化、商習慣等の環境に適応し、多様な人々のニーズや現場のニーズに寄り添い、課題解決を図るための最先進の科学技術やシステム、ネットワークを実装しマネジメントができるイノベティブな人材

[建築学科が養成する人材]

- 都市リスク、社会リスクや自然災害リスクを科学的に把握しながらも、歴史・文化・風土への詳細な観察と尊重の上で、人間生活と生態系とのバランスのとれた建築・都市・環境を論理的に構想できる人材
- 理論の裏付けのもとで、創造的な建築や都市環境・まちづくりを力強く実践することの出来るリーダーシップを持った人材

DP2 都市科学部建築学科の卒業認定・学位授与方針

都市科学部建築学科が卒業を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果（身に付けるべき資質・能力）の目標を定める。

[都市科学部（学修成果の目標）]

- グローバルとローカルな関係を理解し、リスク共生学を学び、イノベーションの理解を深めることで、都市科学の基本を理解することができる能力
- 人文社会科学系の学科ではあわせて理工学系の知識・能力を身につけ、理工学系の学科ではあわせて人文社会科学系の知識を身につけ、文理融合の視点を理解することができる能力
- グローバル化に対応するため、特に海外の異なる文化や社会、商習慣等を理解し、異なる環境に適応できる資質・能力
- 複雑で多様な国際都市を理解するため、豊かさとリスクのバランスをマネジメントするリスク共生を理解できる能力
- 横浜・神奈川地域や新興国の都市をフィールドに実践力を身につけ、グローバルとローカルな課題を接合し、文系と理系の視点を融合することで、21世紀における都市の課題を解決し、新しい都市のあり方を構想し設計できる能力

[建築学科 (学修成果の目標)]

- 建築学に人文社会科学的視点及びリスク共生の視点を加えることで、グローバルとローカルな課題が直結し、多様で複雑な課題が先進的に展開する国際都市の社会ニーズに応えることができる能力
- 建築という広範な学問領域を、建築理論 (AT分野)、都市環境 (UE分野)、構造工学 (SE分野)、建築デザイン (AD分野) という緩やかに連携する四つの分野についてバランスよく身に付ける知識・能力
- AT分野では、歴史性・芸術性・伝統性あるいは人間・行動・利便性の観点から建築空間や構築環境、社会環境を捉えなおすことで、人間生活に深く関わる建築の概念を支える思想や計画の理論形成を基盤とした構想力
- UE分野では、都市においてヒト・構造物 (建築)・エネルギー・各種環境要素 (音・光・熱・空気・水等)・生態系の複合的なつながりを一つのシステムと捉え、人間社会と地球環境のバランスを考えた思考力、計画力、デザイン力
- SE分野では、建物の安全性とそこに集い住まう人たちの生命と財産を守るために、建物の材料・構造・構法の基礎的な知識、理論を習得するとともに、力の作用を数値解析及び実験により理解し建築の創造力
- AD分野では、建築のデザインが工学的知識から美学・哲学などの人文社会科学の知識までが要求される包括的なものであることを理解し、そこから生まれるアイデアをもとに多面的な知識を統合し社会へつなげる構想力、表現能力
- スタジオ教育における共同学習を通じて、様々な知見を統合できる能力
- 横浜・神奈川地域を「生きた実験室 (Living Lab.)」として活用し、社会実験・社会実装を視野に入れた建築・都市の可能性を追究する能力

DP3 都市科学部建築学科の卒業認定・学位授与基準

[卒業認定基準]

都市科学部建築学科に修業年限4年以上在学し、学部教育科目94単位以上、全学教育科目30単位以上、合計124単位以上を修得し、かつ卒業に関わる授業科目のGPA (Grade Point Average) 2.0以上を満たした上、学部が定める卒業の審査に合格した者に卒業を認定する。

[学部教育科目]

- 学部共通科目は、都市科学の基礎3科目4単位 (必修)、「グローバル・ローカル関連科目」「リスク共生関連科目」「イノベーション関連科目」からそれぞれ2科目以上 (選択必修) を含む合計14単位以上の修得
- 理工学の基礎を学ぶ専門基礎科目12単位以上の修得
- 専門科目は、デザインスタジオ4科目10単位および卒業研究5単位 (必修)、4つの分野 (建築理論: AT、都市環境: UE、構造工学: SE、建築デザイン: AD) からそれぞれ4単位以上合計25単位 (選択必修) を含む合計63単位以上の修得
- 学部教育科目のうち2単位以上は、英語で開講されている科目を修得
- アカデミックリテラシー、シビックリテラシー、情報リテラシーを学ぶ基礎演習科目「建築学概論・演習」3単位 (必修) の修得

[全学教育科目]

- 基礎科目は、人文社会系科目4単位以上、自然科学系科目4単位以上
- 外国語科目は、英語科目6単位以上、初修外国語科目2単位以上を含む合計10単位以上の修得 (ただし、私費外国人留学生においては、外国語科目は日本語科目で代替することができる)
- 高度全学教育指定科目として設定している学科が指定する基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から4単位以上

[学位授与基準]

都市科学部建築学科を卒業した者に対し、学士 (工学) / Bachelor of Engineering の学位を授与する。

教育課程編成・実施の方針

(カリキュラム・ポリシー)

CP1 都市科学部建築学科の 教育システムとカリキュラム基本構造

[教育課程の編成方針]

都市科学部建築学科の教育課程は、学部教育科目および全学教育科目により適切な授業科目の区分を定めて体系的に編成するものとする。

各授業科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

学部教育科目は、学部共通（基幹知）科目、専門基礎科目、専門科目、及び卒業研究から編成する。

学部共通（基幹知）科目は、都市科学の基礎（必修）、グローバル・ローカル関連科目（選択必修）、リスク共生関連科目（選択必修）、イノベーション関連科目（選択必修）から編成する。

[建築学科（教育課程の編成方法）]

■専門科目は、建築理論 (Architectural Theory: AT)、都市環境 (Urban Environment: UE)、構造工学 (Structural Engineering: SE)、建築デザイン (Architectural Design: AD) という緩やかに連携する四つの分野から編成

[1・2年次]

■学部共通科目は、「都市科学A」「都市科学B」「都市科学C」（必修）、および「地域連携と都市再生A、B」「GISによる地域解析概論」「居住空間の計画Ⅰ、Ⅱ」（選択必修）などを履修

■基礎演習科目「建築学概論・演習」（必修）、および専門科目「デザインスタジオⅠ、Ⅱ」（必修）、「絵画・彫塑・基礎デザインⅠ、Ⅱ」「身体と空間のデザイン」「建築構造解析Ⅰ・演習、Ⅱ・演習」「建築構法Ⅰ、Ⅱ」「建築環境計画Ⅰ、Ⅱ」「建築構造計画と構造デザインⅠ、Ⅱ」「建築史演習」「西洋建築史Ⅰ、Ⅱ」「建築熱・空気環境Ⅰ、Ⅱ」（選択必修）などを履修

[3・4年次]

■専門科目は、「デザインスタジオⅢA、B」（必修）、「近代建築史A、B」「建築音・光環境A、B」「建築コンピューターデザインA、B」「建築生産Ⅰ、Ⅱ」「建築法規Ⅰ、Ⅱ」「公共施設の計画Ⅰ、Ⅱ」「設備計画Ⅰ～Ⅳ」（選択必修）などを履修

■分野別の総合的な演習を行う科目として、「建築デザインスタジオⅠ、Ⅱ」（AD系）、「建築理論演習」（AT系）、「地域環境計画演習」（UE系）、「建築構造・構法設計演習」（SE系）（選択必修）などを履修

■卒業研究は、卒業論文または卒業設計のいずれかを選択

[1～4年次]

■全学教育科目の英語演習、初修外国語演習、高度全学教育指定科目（グローバル教育科目、イノベーション教育科目）の3・4年次履修

■在学期間中に国内外インターンシップや短期留学を強く奨励

CP2 都市科学部建築学科の 教育課程プログラム運営と成績評価基準

[教育課程の実施方針]

都市科学部建築学科の教育課程は、国際通用性のある質保証された学士課程教育を実現するとともに、教育課程の編成方針に従い、次の取組を実施するものとする。

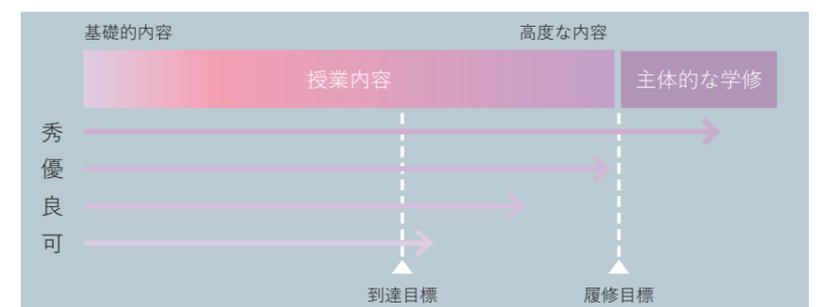
- 建築学は人と社会のインターフェイス技術として、身体的スケールから地球的スケールまであらゆる分野に跨る総合的な学問分野であることを理解する。
- 社会のニーズを踏まえた上で課題解決と価値の創造の両立を目指す、広範かつ統合的な知の素養を身に付ける。

[成績評価基準]

都市科学部建築学科の成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEBシラバス（Syllabus）に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード（評語）を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対してGP（Grade Point）を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード（評語）で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP（Grade Point）を与えないものとする。

成績評価の基準には、学修成果に係る評価指標として「授業別ルーブリック」を作成し、学生が学修する内容と学生が到達するレベルをマトリックス形式で明示するものとする。

評語	成績評価の基準	GP	評価点
秀	履修目標を越えたレベルを達成している	4.5	100-90点
優	履修目標を達成している	4	89-80点
良	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	3	79-70点
可	到達目標を達成している	2	69-60点
不可	到達目標を達成していない	0	59-0点



- 履修目標は、授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標
- 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示す

入学者受入れの方針

(アドミッション・ポリシー)

AP1 都市科学部(建築学科)が求める学生像

都市を担う人間とそれを支える自然環境、社会環境、文化システムなどを対象として、文理にわたる幅広い視点から社会課題を科学的に分析・考察・実践することにより解決し、多彩な分野で活躍できる人材の育成を目指す。よって、次に示す人の入学を求める。

[都市科学部が求める学生像]

- 理工系と人文社会系の知識を学ぶことで文理両面やダイバーシティ（多様性）の視点、複眼的思考を身に付けたい人
- ローカル・グローバルにわたる多次元的な世界を相互理解できる広い視野をもち、横断的な課題解決能力、総合力を身に付けたい人
- 上記の視点と視野・知識・能力・技術を身に付けて、街づくり、都市文化・社会基盤構築、自然との調和で都市の未来に貢献したい人

[都市科学部建築学科が求める学生像]

- 建築の思想を中心に芸術から工学まで幅広く学び、これからの時代を担う建築を都市の中に構想できる創造的な建築家になりたい人
- 自然災害に強く安全な建築や街づくりに貢献したいと願い、そこに集い住まう人たちの生命と財産を守ることができる建築構造エンジニアや建築構造デザイナーになりたい人
- 自然と調和した住空間のデザインスキルを身に付け、地球環境との均衡を保ちつつ人々の健康で快適な生活を実現できる建築環境設備エンジニアになりたい人
- 都市や建築の成り立ちや歴史の変遷を知り、未来社会に向けた持続可能な新しい街づくりを実践できる都市計画プランナーや都市デザイナーになりたい人
- 建築や都市に関する知見を生かして、地域社会や国際社会のファシリテーションやマネジメントに積極的に関わっていききたい人

CP3 都市科学部建築学科における入学から卒業までの学修指導の方針

都市科学部建築学科の学修指導は、学生の多様なニーズや学修支援の効果等を踏まえて適切に実施するとともに、次の取組を実施するものとする。

[1年次]

- 「建築への導入」期（1年春学期～1年秋学期）とし、都市や地球環境をめぐる様々なリスクについて広範かつ本質的な知見を育みながら、建築に必要な観察力や態度を養う。
- 年度末または年度当初に面談を行い、各学期の成績に基づき履修指導を実施する。

[2年～3年次]

- 「建築への素養」期（2年春学期～3年春学期）から「建築の探求」期（3年秋学期～4年秋学期）にかけて、基礎的な能力・知見の習得からその応用・探求へと展開する。
- 「建築の探求」期に、新しい研究や実践のアイデアを発見していくために、高年次の教養教育を重視。これにより、文化的・機能的・創造的であり、災害や社会の変化に対しても応答できるこれからの建築や都市を創る上で欠かせない能力を獲得する。
- 必修科目であるデザインスタジオⅠ～Ⅲを通して、基礎的な設計製図能力を身に付けるだけでなく、各分野で学んだ知識を広く統合しながら課題発見能力、課題解決能力を包含した統合的なデザイン力を獲得していく。
- 国内外インターンシップや短期留学、地域での演習課題、自治体とのフューチャーセッション、人文社会科学系科目の履修などを通して、様々な気づきを個々に獲得できるような機会を持たせる。
- 年度末または年度当初に面談を行い、各学期の成績に基づき履修指導を実施する。

[4年次]

- 「建築の探求」期に、新しい研究や実践のアイデアを発見していくために、高年次の教養教育を重視する。これにより文化的・機能的・創造的であり、災害や社会の変化に対しても応答できるこれからの建築や都市を創る上で欠かせない能力を獲得する。
- 学習の集大成として卒業論文または卒業設計のいずれかを選択して卒業研究に取り組む。
- 卒業研究において、専門分野に関するテーマを選定して個別の研究または設計を行い、論文または設計作品の形で成果をまとめて発表する。

[授業科目履修と履修登録上限（CAP制）]

履修登録単位数の上限（半期）は、一部の指定科目を除き1年次24単位、2年次以上20単位とし、上限緩和措置適用者（履修登録しようとする学期の前学期のGPAが3.0以上の者）に対しては26単位とする。

AP2 都市科学部(建築学科)が 入学者に求める知識や能力・水準

都市科学部建築学科では入学後、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提に、建築学全般の専門の教育を実施するために、次に示す知識や能力・水準を求める。

- 建築空間・都市空間を、力学的特性・空気・光・音・熱などを含めて、その成り立ちから現状についての確に把握・分析する能力を養成する教育を実施するために、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提とし、特に英語、数学、理科の試験を課して、論理的思考力を求める
- 空間を幾何学的に把握し、力の流れを適切に制御しながら新たな空間を創造する能力を養成する教育を実施するために、数学、物理の学力を土台とし、総合的な設問を課して、横断的な思考力・批評力・表現力を求める
- 建築や都市を創造するためには様々な分野の人々との協力が必要であることから、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を重視し、国際的な広い視野やコミュニケーション能力を求める

AP3 都市科学部(建築学科)の入学者選抜の基本方針

都市科学部建築学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会と多様な入学者選抜を次のように実施する。

[一般選抜(前期日程)]

大学入学共通テストの成績(国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語)、個別学力検査(数学、理科、外国語)の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、専門教育の基礎となる学力として、数学、理科、外国語の学力を中心に評価する。入学志願者数にかかわらず、2段階選抜は行わない。

[一般選抜(後期日程)]

大学入学共通テストの成績(国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語)、個別学力検査(数学、理科)の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に個別学力検査では、専門教育の基礎となる学力として、数学と理科の学力を中心に評価する。入学志願者数にかかわらず、2段階選抜は行わない。

[総合型選抜]

第1次選抜では書類審査および実技(造形に関する思考力・表現力の検査)、第2次選抜では面接試験(口頭試問による論理的思考力・理解力・表現力の検査)により選抜を行い、最終合格者を決定する。

[帰国生徒選抜]

第1次選抜では書類審査、実技試験(造形に関する思考力・表現力の検査)および小論文、第2次選抜では面接試験により選抜を行い、最終合格者を決定する。小論文は、建築を中心としたテーマに対する思考力、表現力、獨創性・論理性、および、造形に関する思考力・表現力を評価する。面接試験は、海外で学んだこと、大学で学びたいことと海外経験の活かし方の関わりに対する考え、および、口頭試問による論理的思考力・理解力・表現力を評価する。

[YGEP-N1(私費外国人留学生入試 [渡日入試・渡日前入試])]

大学入学共通テストの代わりに日本留学試験および外部英語試験(TOEFL、TOEIC又はIELTS)を課すことで基礎的な知識や技能を確認する。